埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

復習シート 第六学年 国語

組	番号	名前

【物語を読んで答える問題】

1　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

わたしは、この平野をよこぎって、むこうのウメアという村にとまるつごうにしていました。ところが、午後ウメアのひとつてまえの駅舎まできますと、二頭しかない馬が、二人づれの材木商（ざいもくしょう）の旅客（りょきゃく）に借りられたそうで、わたしは、夜七時まで、むなしくそこで待っていました。ところが馬はまだかえってきません。わたしは気がせくので、そこいらの農家をさがしてまわり、ようやく一頭の馬を見つけだしました。

駅の番人は材木屋（ざいもくや）といっしょに乗っていったそうで、かみさんがでてきて、わたしの馬にかいばをくれました。ここからウメアまではまだ二十マイルもあるのです。もうとちゅうには、食事をするところもないので、ぜひここで晩飯（ばんめし）を食べてでなくてはなりません。それで、番人のかみさんにたのみますと、かみさんは、こころよく、家へつれていき、火のそばにすわらせて、おいしいコーヒーと、ジャガイモと、となかいの肉のやいたのをだしてくれました。その家は、大きな黒い森のそばにたっているのでした。食事をしていると、きゅうにうしろのその森の中で、ごおうごおうごおうと、北風が木ぎをゆすってうなりはじめました。かみさんは、

「おやおや、ひどい風がでましたね。わるい晩ですこと。これじゃうちの人は、たぶん、ウメアにとまってあしたの朝でなければかえりますまい。むこうへおつきになったら、きっと駅舎にいますでしょう。かわりにラルスをつけておあげします。ラルスはあすの朝、うちの人といっしょにかえればいいんです。」といいます。

「ラルスというのはだれです。」と聞きかえしますと、

「手まえどもの子どもですよ。あいにく近所にも、だれもおともをするものがいませんので……。ラルスはいま馬のくらづけをしております。」とかみさんは答えました。

と、ちょうど、それとどうじに戸口があいて、十二ばかりの小さな男の子がはいって

来ました。きぬのたばのようになった金色の髪（かみ）のまき毛を、顔のうしろにふさふさとかぶった、ほほのまっ赤な円い青いきれいな目をしたかわいい子どもです。わたしはかみさんが、こんな嵐の晩に、こんな小さな子どもをよくへいきでだすものだとおどろきました。「ラルス、ここへおいで。」と、わたしは、その子の手をとり、

「おまえ、こんな晩にでていくのは、こわいだろう？」と聞きました。子どもは、きょとんと 目を見はって、ほほえんでいます。かみさんはにこにこわらって、

「なに、この子どもだってだいじょうぶ。おともをします。嵐がつよくさえならなければ、十一時ごろまでにはウメアにおつきになれますよ。」と、わたしが、この子でまにあうかどうかとうたがいでもしたようにべんかいするのです。わたしは、どうも風がごうごうなるのが心配でたまりませんでした。思いきって子定をかえて、今晩はこの村へとまろうかと考えかけました。しかしラルスはへいきで、もうどんどんひつじの毛皮のがいとうを着、毛皮のとりうちぼうしの両側のたれをおろしてあごにくくり、あつい毛おりのえりまきを、目ばかりのこして顔中にまきつけます。母親はストーブの上にかわかしてある、うさぎの毛皮のあつい手ぶくろをとってわたしました。ラルスは、すばやくそれをはめて、短い、なめし皮のむちをとりあげて、わたしを待っています。

（鈴木三重吉「少年駅夫」より）

一　「むなしくそこで待っていました。」とありますが、わたしは何を待っていたのでしょうか。次の１から３までの中から一つ選び、その 番号を書きましょう。 レベル６

１　材木商の旅客
２　かみさん
３　馬

二　＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝とありますが、わたしのどんな行動から、かみさんはわたしにこのように言ったのでしょうか。文中から一文を書きぬきましょう。 レベル９

埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

復習シート 第六学年 国語

組	番号	名前

模範解答

【物語を読んで答える問題】

1　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

わたしは、この平野をよこぎって、むこうのウメアという村にとまるつごうにしていました。ところが、午後ウメアのひとつてまえの駅舎まできますと、二頭しかない馬が、二人づれの材木商（ざいもくしょう）の旅客（りょきゃく）に借りられたそうで、わたしは、夜七時まで、むなしくそこで待っていました。ところが馬はまだかえってきません。わたしは気がせくので、そこいらの農家をさがしてまわり、ようやく一頭の馬を見つけだしました。

駅の番人は材木屋（ざいもくや）といっしょに乗っていったそうで、かみさんがでてきて、わたしの馬にかいばをくれました。ここからウメアまではまだ二十マイルもあるのです。もうとちゅうには、食事をするところもないので、ぜひここで晩飯（ばんめし）を食べてでなくてはなりません。それで、番人のかみさんにたのみますと、かみさんは、こころよく、家へつれていき、火のそばにすわらせて、おいしいコーヒーと、ジャガイモと、となかいの肉のやいたのをだしてくれました。その家は、大きな黒い森のそばにたっているのでした。食事をしていると、きゅうにうしろのその森の中で、ごおうごおうごおうと、北風が木ぎをゆすってうなりはじめました。かみさんは、

「おやおや、ひどい風がでましたね。わるい晩ですこと。これじゃうちの人は、たぶん、ウメアにとまってあしたの朝でなければかえりますまい。むこうへおつきになったら、きっと駅舎にいますでしょう。かわりにラルスをつけておあげします ラルスはあすの朝、うちの人といっしょにかえればいいんです。」といいます。

「ラルスというのはだれです。」と聞きかえしますと、

「手まえどもの子どもですよ。あいにく近所にも、だれもおともをするものがいませんので……。ラルスはいま馬のくらづけをしております。」とかみさんは答えました。

と、ちょうど、それとどうじに戸口があいて、十二ばかりの小さな男の子がはいって

来ました。きぬのたばのようになった金色の髪（かみ）のまき毛を、顔のうしろにふさふさとかぶった、ほほのまっ赤な円い青いきれいな目をしたかわいい子どもです。わたしはかみさんが、こんな嵐の晩に、こんな小さな子どもをよくへいきでだすものだとおどろきました。

「ラルス、ここへおいで。」と、わたしは、その子の手をとり、

「おまえ、こんな晩にでていくのは、こわいだろう？」と聞きました。子どもは、きょとんと 目を見はって、ほほえんでいます。かみさんはにこにこわらって、

「なに、この子どもだってだいじょうぶ。おともをします。嵐がつよくさえならなければ、十一時ごろまでにはウメアにおつきになれますよ。」と、わたしが、この子でまにあうかどうかとうたがいでもしたようにべんかいするのです。わたしは、どうも風がごうごうなるのが心配でたまりませんでした。思いきって子定をかえて、今晩はこの村へとまろうかと考えかけました。しかしラルスはへいきで、もうどんどんひつじの毛皮のがいとうを着、毛皮のとりうちぼうしの両側のたれをおろしてあごにくくり、あつい毛おりのえりまきを、目ばかりのこして顔中にまきつけます。母親はストーブの上にかわかしてある、うさぎの毛皮のあつい手ぶくろをとってわたしました。ラルスは、すばやくそれをはめて、短い、なめし皮のむちをとりあげて、わたしを待っています。

（鈴木三重吉「少年駅夫」より）

一　「むなしくそこで待っていました。」とありますが、わたしは何を待っていたのでしょうか。次の１から３までの中から一つ選び、その 番号を書きましょう。　レベル７

１　材木商の旅客
２　かみさん
３　馬

「むなしくそこで待っていました。」の後に、「ところが馬はまだかえってきません。」や「ようやく一頭の馬を見つけだしました。」という本文から、「馬」が答えとなります。

3

二　＿＿＿＿＿＿＿＿とありますが、わたしのどんな行動から、かみさんはわたしにこのように言ったのでしょうか。文中から一文を書きぬきましょう。　レベル９

「ラルス、ここへおいで。」と、わたしは、その子の手をとり、「おまえ、こんな晩にでていくのは、こわいだろう？」と聞きました。

＿＿＿線の後、「わたしが、この子でまにあうかどうかとうたがいでもしたようにべんかいするのです。」とあり、うたがったような様子が現れているのは、ラルスに「こわいだろう？」と聞いているところなのでその一文を書きぬく。